

# 埋文にいがた

MAIBUN

新潟県埋蔵文化財センター

MAIBUN  
NIIGATA

2021 Mar.

第114号

発掘  
調査遺跡  
紹介

南魚沼市金屋遺跡、上越市下割遺跡

埋文インフォメーション 校外学習・出前授業



溶液に漬けて保存処理した木製品の乾作業風景



2020年度  
発掘調査  
遺跡の紹介

# 金屋遺跡Ⅳ

## —古代の集落—

所在地：南魚沼市余川地内

金屋遺跡は関越自動車道や国道253号八箇峠道路などの建設に伴いこれまでに3回の発掘調査が行われ、4回目となる今年度は約1,053㎡を対象に調査を行いました。

遺跡は魚沼丘陵の東側に位置する独立丘陵の蟻子山東裾部、庄之又川によって形成された扇状地上に立地し、標高は現況で約194mです。これまでの調査で、縄文時代から平安時代まで断続的に人々が生活していた痕跡が見つかります。今年度の調査では2層の遺物包含層(上層・下層)と遺構・遺物が見つかり、出土した土器から奈良～平安時代(8世紀後半から10世紀前半ころ)の集落跡であることがわかりました。今年度は上層調査を終了させ、残りの下層調査は次年度行う予定です。

調査区は北側ほど標高が高く、旧河道が存在する西側や南側に向けて緩やかに傾斜しています。上層で見つかった遺構は、掘立柱建物、土坑、溝、土器集中遺構、焼土遺構、ピットなどで、標高の高い北側に集中しています(写真1)。掘立柱建物は主軸方位に4つのまとまりが認められます。建物同士が重なり合っているものが多く、建て替えを繰り返し行っていたものと考えられます。下層遺構は未調査ですが、上層で見つかった遺構に加え堅穴建物と考えられる遺構を検出しています。

遺物は土器、土製品、石製品、鉄製品が収納箱(内寸54×34×10cm)で55箱出土しました。土器は須恵器や土師器を中心に、黒色土器、緑釉陶器、灰釉陶器などがあります。墨書・刻書土器も出土していて、文字が判読できるものでは「女」と記されたものが多く確認できます(写真2)。人名もしくは地名を表しているものと考えられます。土製品は鞆の羽口や土錘などが、石製品は腰帯具(石帯)などがあります。鉄製品(写真3)は平安時代では県内初例となる馬具(轡・鍔金具)のほか紡錘車、鎌、刀子などがあります。

金屋遺跡は施釉陶器や石帯、鉄製品などが出土

していることから、一般的な集落というよりは拠点的な集落であった可能性があります。さらに羽口や紡錘車などの遺物からは、集落内での手工業を想定できます。また、上層と下層で見ついている遺構・遺物の内容に違いが認められることから、時期によって集落の性格が異なっていた可能性も考えられます。

(株式会社大石組 南波守)



写真1 上層完掘 北から

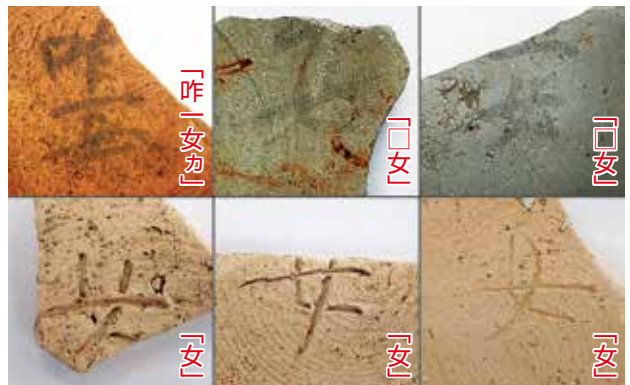


写真2 墨書・刻書土器



写真3 鉄製品



2020年度  
発掘調査  
遺跡の紹介

## 下割遺跡Ⅷ

### 古代～中・近世の集落と農地

所在地：上越市米岡・北田中・鶴町地内

下割遺跡は高田平野の中央、飯田川左岸の微高地上に所在し、標高は約14mです。国道253号上越三和道路建設に伴い、平成14年からこれまで8回の発掘調査を行っています。令和2年度は市道予定部分の東側の一部（220m）と西側の橋脚6か所（P1～P6と呼称）を調査しました（写真1）。

遺跡は上から中・近世の水田域と西側に集落、奈良・平安時代の集落と畠と自然流路、古墳時代は前期の溝と後期の焼土・土器集中地点、縄文時代は後期前半の遺物包含層を検出しました。今回は中・近世と奈良・平安時代を中心に報告します。

1層目では市道220mすべてとP2～P6で中・近世の水田区画である小畦畔と水口・溝、P2で幅2.8mの大畦畔（農道）を検出しました。この農道は現在の農道の直下で検出したことから、室町から令和まで継続して道として使用していたことが分かりました。水田の範囲は東西420m、南北55mとなり、南北はさらに伸びています。大畦畔の西側では屋敷の区画溝となる直角に曲がる幅3.0mの大溝を検出しています（写真2）。屋敷内では畠となる畝状小溝を複数検出しました。西端のP1では屋敷の中心部となる掘立柱建物9棟・井戸4基・土坑7基・溝8条を検出しています。P4では地下式坑1基を検出しました。覆土から北宋銭「聖宋元寶」（1101年初鑄）1枚と曲物・杓子・箸が出土しており墓の可能性が考えられます。



写真1 遺跡近景・手前市道、奥橋脚（東から）

そのほかの中・近世の遺物は水田が中心ということもあり青磁・土師質土器・珠洲焼・小柄・銭貨・舟形木製品等少量です。

2層目の奈良・平安時代の遺構は、市道で自然流路を検出し、多くの土師器・須恵器・灰釉陶器等と共に土製カマド部材や鉄製紡錘車等が出土しました。土製カマド部材が出土したことから、周辺に造り付けカマドを伴う建物を中心とする集落があると考えられます。灰釉陶器には椀のほかに希少な耳皿が1点出土しています。P2から市道西端までの東西250mの範囲で畠の畝状小溝を検出しました。やや幅広の畝状小溝からは、焼けた木材と大量の炭化米が出土しました。近くに蔵があり火災で焼けた米や木材を廃棄したと考えられます。P2では、柱穴に割材を複数組んで沈下防止の礎板とした掘立柱建物1棟を検出しました。この掘立柱建物の周辺が、平安時代の集落の中心になるようです。P1で東西方向に流れる自然流路を検出しました。川幅は3m以上あり、南岸は調査区外に延びていました。護岸の可能性のある杭列2条や土師器・須恵器が大量に出土しました。

墨書土器が複数出土しており、土師器無台椀に「太」と書いたものが2点あります。

今回の調査は遺跡の一部でしたが、これまでの調査成果と合わせて集落や農地の範囲が明らかになりました。遺跡の最西端の橋脚A1と市道の西側、縄文層の調査は継続予定です。（佐藤友子）



写真2 P2・中世の屋敷地区画溝と農地（右上が北）



埋文  
コラム

## 鎌倉時代～室町時代のすり鉢

鎌倉時代から室町時代の遺跡を調査しているとよく目にする遺物に「すり鉢」があります。すり鉢は食物をすりつぶしながら混ぜるための鉢で、食材を細かく砕いたり、ペースト状にするための調理器具です。「する」は縁起が悪いので「当たり鉢」と呼ぶこともあるそうです。また、遺跡から出土する、すり鉢のほとんどは片口を持つことから埋蔵文化財界隈では「片口鉢」と呼ばれることも多くあります。

新潟県内の遺跡からは珠洲焼すり鉢が多く出土します。珠洲焼は平安時代末（12世紀中葉）から室町時代後期（15世紀末）にかけて、石川県能登半島に所在する珠洲市周辺で作られ、北海道南部から福井県にかけての日本海側に広く流通した焼き物です。

珠洲焼すり鉢は新潟県では平安時代末頃から確

認できるようになります。当初は内側に卸目がありませんでしたが、鎌倉時代初め（13世紀前半）頃には疎らに卸目が入るようになります（写真1）、室町時代（15世紀）には口の端に波状文が巡り、内側に密に卸目が見られるようになります（写真2）。

15世紀末に珠洲焼の窯が操業を止めると16世紀には越前焼（福井県）、安土桃山時代・江戸時代には唐津焼（長崎県の一部と佐賀県）や須佐焼（山口県）のすり鉢が流通しました。

新潟県埋蔵文化財センターの展示室には糸魚川市山岸遺跡出土の珠洲焼すり鉢（鎌倉時代末：14世紀初め）が展示してあり、内側をのぞくと使用により磨り減った卸目が観察できます。埋蔵文化財センターに足を運ばれ、ご覧になってください。

（春日真実）



写真1 鎌倉時代の珠洲焼すり鉢（高さ約15cm）



写真2 室町時代の珠洲焼すり鉢（高さ約18cm）ともに名立沖出土『日本海に沈んだ陶磁器』新潟県海揚がり陶磁器研究会より転載



# 埋文 インフォ メーション

## 新潟県埋蔵文化財センター 校外学習・出前授業・職場体験のご案内

当センターでは、センターを丸ごと教材に位置づけ、歴史学習やキャリア教育の支援ができるようプログラムを作成しています。センターで行う校外学習のほか、職員が学校に出向いて歴史解説を行う出前授業、そして職場体験も受け入れています。

### 校外学習

校外学習では、歴史を学び始めた児童・生徒が、本物の土器や石器を見たり触れたりすることによって、実際にあった歴史を体感しながら学んでいただくことを目的とします。

メニューには、本物を用いた歴史学習、展示見学、各種体験学習、仕事見学があります。

本物を用いた歴史学習では、スライドとワークシートを使って、主に縄文時代について分かりやすく解説します。また、本物の縄文土器や石器を触ったり、弓矢・石斧の復元品を持ったりして、古代の暮らしや移り変わりを学びます。

展示見学では、県内の縄文時代などの出土品を見学し、ワークシートの問題を解きながら歴史を学びます。

体験学習には、石器の切れ味体験、火起こし体験、勾玉作り体験があります。

仕事見学では、土器の復元や金属製品・木製品の保存処理など、当センターならではの仕事を見学し、歴史を伝えることの重要性を学びます。



本物の縄文土器を持つ



勾玉作り体験

### 出前授業

センターに来館が難しい学校には、職員が学校に出向いて歴史解説をするほか、体験学習も行うことができます。

土器や石器など数多くの本物を持ち込むため、センターでの校外学習と同様の学習を体験いただけます。

### 職場体験

主に中学生向けの職場体験として、本物を用いた実測・拓本、土器の接合、出土品の保存処理など、専門的な技術を要するセンターならではの仕事を体験するプログラムを用意しています。生徒にとって、仕事について学ぶよい機会になると考えております。

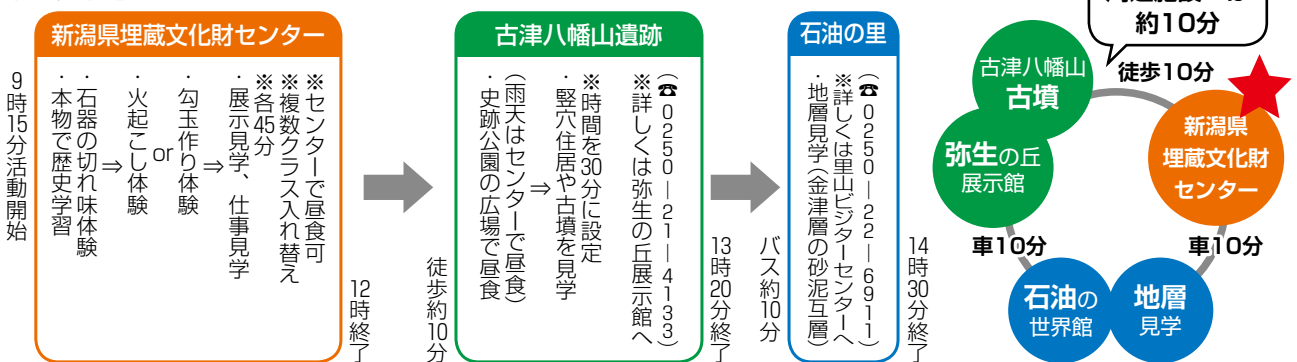


土器の拓本



銭貨の保存処理

## 校外学習モデルコース (古津八幡山遺跡・石油の里は各館にお問い合わせください。)





県内の  
遺跡・遺物  
112

## 県指定有形文化財（考古資料）

平成7年3月28日指定 沖ノ原遺跡出土品1064点

遺跡所在地：津南町

遺物保管：津南町歴史民俗資料館

昭和53（1978）年に指定を受けた史跡沖ノ原遺跡は、信濃川右岸、中津川左岸の河岸段丘面の、標高約450m米原Ⅱ面に立地しています。昭和47（1972）～48（1973）年にかけて、3回の調査が実施されました。

その結果、およそ縄文時代中期中葉（約5,000年前）～中期末葉（約4,500年前）までの環状集落（径：約120m）であることが判明しました。53軒もの住居跡が確認され、その中には3軒の長方形の大形住居跡や敷石住居跡も含まれます。

本遺跡では、縄文時代中期を中心とした火焰型土器を初めてとする多くの縄文土器が出土しています。さらに、土器を埋設し、大小の様々な石を精緻に敷き詰めて作り込まれた複式炉が確認された第1号住居跡があります。

この住居跡からは、縄文時代中期末葉前半期（約4,500年前）の土器が出土しました。

その土器が、沖ノ原Ⅰ式期の標式資料となる土器群（写真1）です。その特徴は、深鉢形で、口縁部につけられた隆帯に刻みが入り、この隆帯で全体を大きく2つに分けられ、下半部である胴部に縄文文様が施される点です。蛇紋岩類製磨製石斧を含む石器群、三角とう形石製品などの石製品、特徴的な土偶（写真2）や三角形土偶、石棒が材質変換された珍しい土棒などの土製品、炭化したクリなどの植物遺体、全国的にも稀なクッキー状炭化物が出土しました。未指定のクッキー状炭化物の科学的分析から、堅果類を素材として作られていることがわかっています。

これら出土遺物のうち1064点が、平成7（2005）年に新潟県指定文化財となり、現在、津南町歴史民俗資料館にて収蔵展示されています。津南町教育委員会文化財班（025-765-2299）までお問い合わせください。

（津南町教育委員会 佐藤信之）



写真1 沖ノ原式土器



写真2 沖ノ原遺跡出土の土偶



埋文にいがた 第114号 令和3年3月15日発行

発行 新潟県埋蔵文化財センター Niigata Prefecture Archaeological Research Center

指定管理者：公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1 TEL:(0250)25-3981 FAX:(0250)25-3986

E-mail: niigata@maibun.net URL: https://www.maibun.net/



『埋文にいがた』のバックナンバーは（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団 HP でご覧いただけます。上の URL からご確認ください。